

タイにおける山地民政策略史

- ・1950年代: タイ政府は**山地民というカテゴリーを作り**,
山地民が引き起こす**諸問題を設定**.
- ・1970年代: 山地民の共産化を阻止し, 彼らをタイ国に
取り込むための政策を実施(**同化政策**)
- ・1980年代末: 法律などを遵守させ, 山地民を管理す
るための政策を実施.
- ・2000年代: 山地民というカテゴリーは政策上消滅.
山地民は社会的弱者の一部へ.

「山地民」の誕生

タイの山地民＝タイでは一九五〇年代から北部地方に集住する山地の焼畑移動耕作者を「山地民」として公称。民族や来歴はさまざま。

カレン族やラフ族はタイに古くから暮らしていた人びとがいる。

ミエン族やモン族、アカ族、リス族は多くが19世紀以降にタイにきた人びと。




図1-2 タイの土地利用の概要 (2000年)
出所: www.coe.go.th/gis/mapからのダウンロード (2005/1/3) 資料をもとに作成。

タイの山地民						
民族名 (Ethnic groups)	タイにおける村落数 (カ所)	2003年の人口 (人)	割合 (%)	語族 (Linguistic family)	語群 (Groups of language)	タイ北部に移住してきた時期 (世紀)
カレン (Karen)	1912	438,131	47.5	Sino-Tibetian	Tibet-Burman	6th or 7th
モン／フモン (Hmong)	253	153,955	16.7	Austro-Thai	Miao-Yao	20th
ラフ (Lahu)	385	102,876	11.2	Sino-Tibetian	Tibet-Burman	19th
アカ (Akha)	271	68,653	7.4	Sino-Tibetian	Tibet-Burman	20th
ヤオ／ミエン (Yao (Mien))	178	45,571	4.9	Austro-Thai	Miao-Yao	19th
ティン (H'tin)	159	42,657	4.6	Austro-Asiatic	Mon-Khmer	20th
リス (Lisu)	155	38,299	4.2	Sino-Tibetian	Tibet-Burman	19th
ラワ (Lua (Lawa))	69	22,260	2.4	Austro-Asiatic	Mon-Khmer	5th
カム (Khamu)	38	10,573	1.1	Austro-Asiatic	Mon-Khmer	Before 11th
合計	3420	922,975	100			

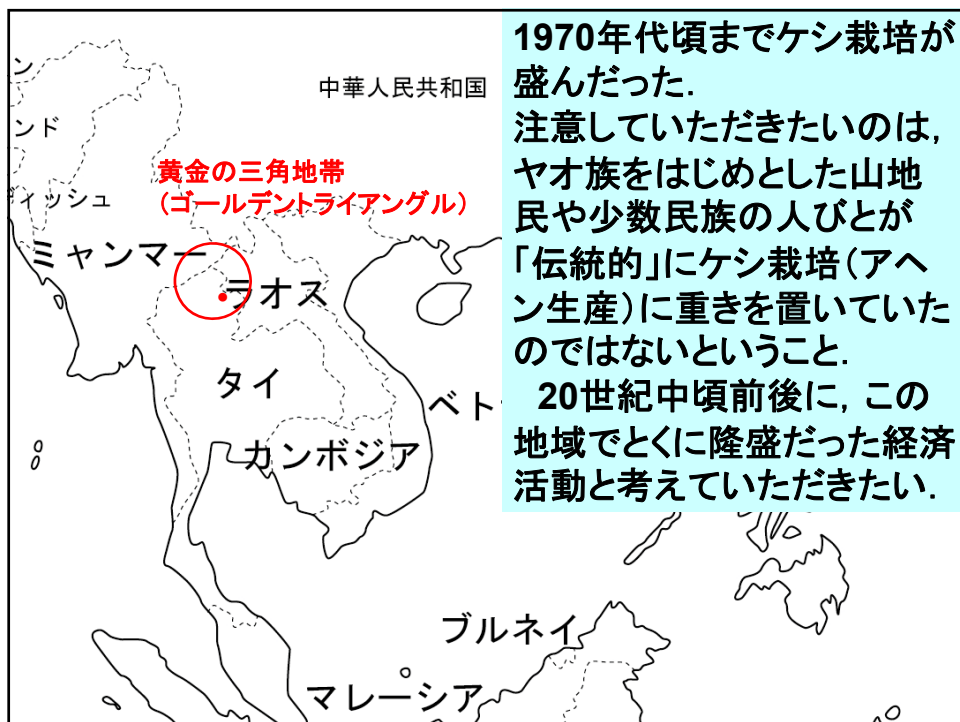
出所: Schliesinger (2000); Tribal Museum (2004)

このほか狩猟採集民のムラブリ(約300人)。主要10民族。山地民の人口は約92万人、当時のタイの全人口の2パーセント弱にあたる数。

山地民が起こす諸問題とは？

- ①麻薬の取り締まりとケシ栽培対策
- ②国防のための国境での共産ゲリラ活動対策
- ③焼畑による森林破壊への対策

それまで、タイ政府による管理が行き届いていなかったタイ北部の国境周辺地域についても管理を開始。そのような国家の周縁地域にいらしていたのが山地民に区分される人びとだった。



1970年代頃までケシ栽培が盛んだった。

注意していただきたいのは、ヤオ族をはじめとした山地民や少数民族の人びとが「伝統的」にケシ栽培(アヘン生産)に重きを置いていたのではないということ。

20世紀中頃前後に、この地域でとくに隆盛だった経済活動と考えていただきたい。

タイの森林保護政策(岡(1994)を中心に, 倉島(2007)を参考とした)

略年表

- ・19世紀末: **チーク輸出**の開始とともに森林の国家管理が開始される
- ・20世紀初め: 王立林野局の成立
- ・20世紀中頃(1960年代半ばまで): 経済発展のために森林開発促進の時代 **チーク販売の時代**
- ・1960年代半ばから1980年: 森林資源の枯渇化が表面化し, 国有林地内の居住者と荒廃林地の管理が問題
チークをはじめ良質な木材資源が枯渇してしまった時代
- ・1989年国有林における商業的森林伐採禁止令
- ・1990年代以降: 水源地の管理の強化など保護林の拡大

チーク Teak, *Tectona grandis*



耐久性がきわめて高く, 菌類, 昆虫, 海産フナムシなどにおかされにくい。また乾燥後の寸法安定性にすぐれ, 狂わず, 比重のわりに加工性がよく, 強度がある。これらのすぐれた特性に加え, 気品のある重厚な色調をもつので, 世界の最高級材の一つ。船舶用材や客車の内装用材の第1等材として名高い。ふつうタイ, ミャンマーの天然生チークが最も優良。

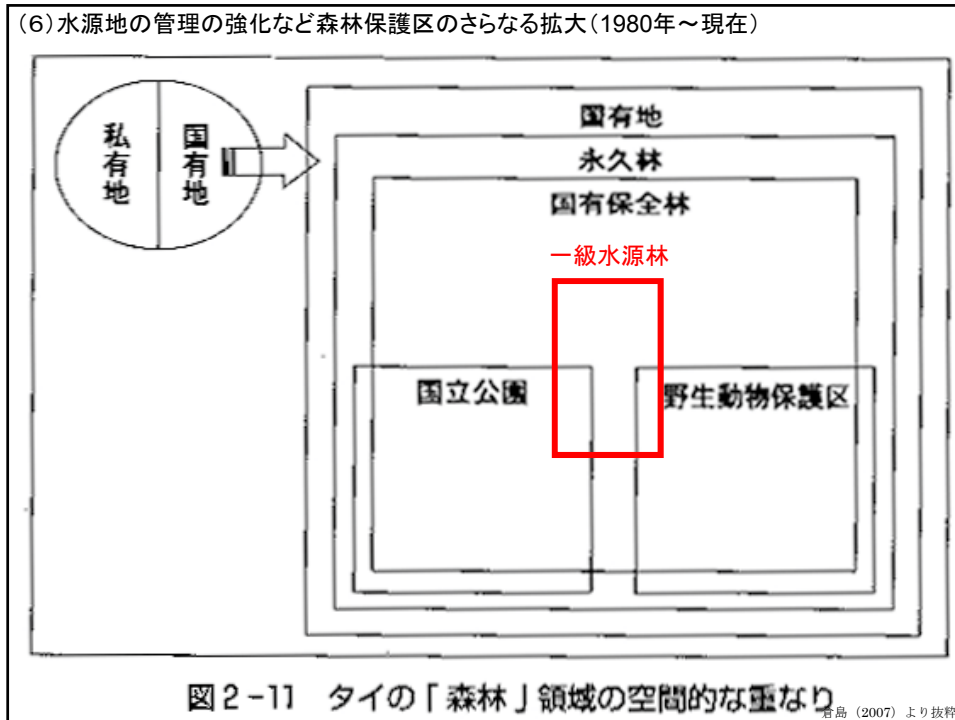


表2-5 タイにおける水源域級数と定義、特徴、用途

水源級数	定義(各級の横に記載)と特徴、用途
第1級 保護林と水源	<p>A 保護された森林と河川の水源域。これらの地域は通常、高標高で、急勾配。永久に森林で覆っておくべき。</p> <p>B Aと同様の物理的、環境的な特徴を持つ。但し、一部は既に農用や占有用に開墾されている。特別な土壌保全措置を要し、可能なら、植林して森に戻すか、永久的なアグロフォレストリーで維持すべき。</p>
第2級 商業林	<p>保護林か、または商業林造成候補地。合法的な鉱石採取や伐採が可。通常、急勾配で高標高。但し、地形が第1級地よりは浸食しづらい。適切な土壌保全措置がなされるなら、放牧や作物生産も可。</p>
第3級 果樹園	<p>急勾配だが、浸食しづらい地形の高地。森林プランテーションや放牧、果樹、その他一定の農産物に利用され得る。土壌保全措置は必要。</p>
第4級 高地農業	<p>緩い勾配で、列植え作物や果樹、放牧に向く。若干の土壌保全措置が必要。</p>
第5級 低地農業	<p>緩い勾配か、さもなくば平らな地域。水田か他の農業に利用し、特に保全措置を必要とせず。</p>

出所：Tangtham and Chanko [1990] にもとづく。

山地民政策や森林保護政策が実施されるなかで住民の生業はどのように変化していったのか？
タイ北部の山村等の事例を紹介する



PD村は開村後約100年程度が経過していると言われる。
山の山腹、標高約950mに位置している。村民はミエン(ヤオ)族である。
2004年には20世帯に約120名が暮らしていた。
自給用に陸稲、換金作物としてアヘン芥子(けし)、綿花、トウモロコシ(1990年代中頃以降)などを栽培。

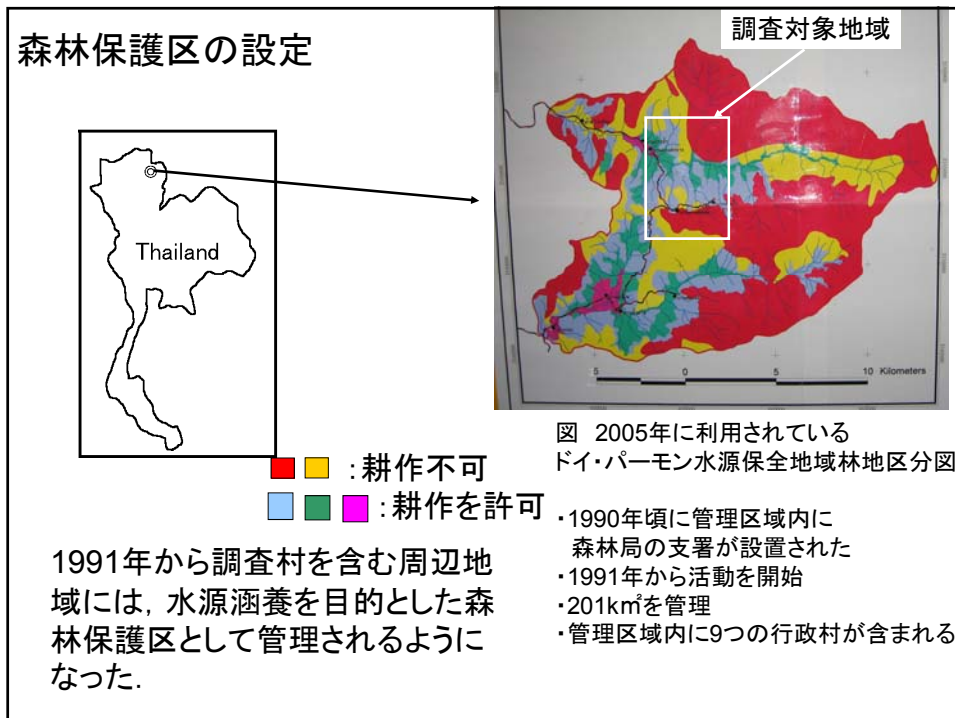
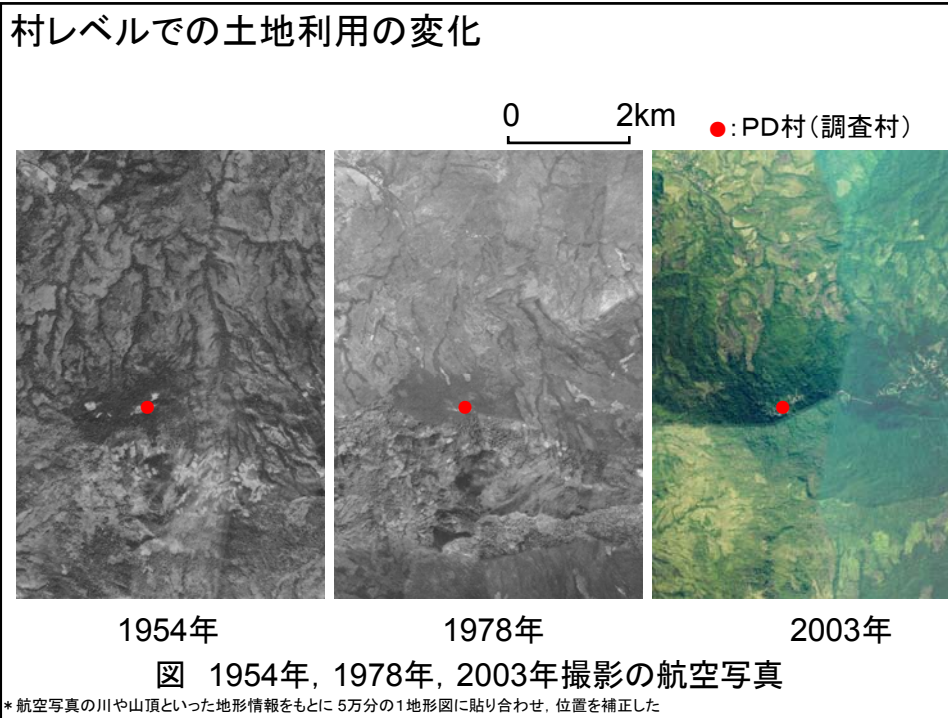
①農業 (1)村レベルの土地利用

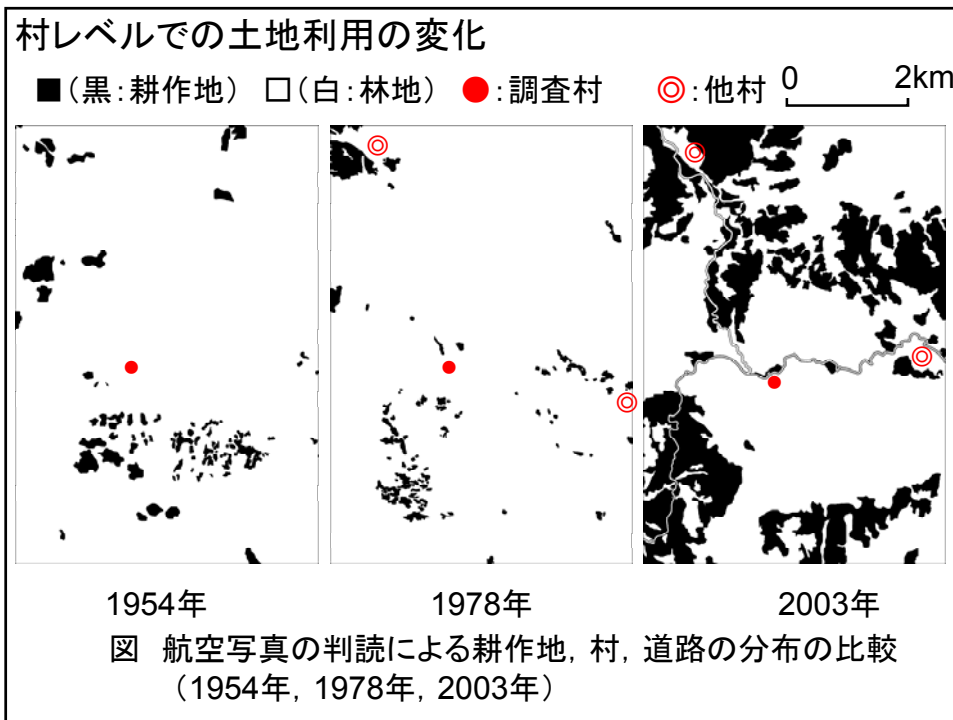
・焼畑から常畑へ

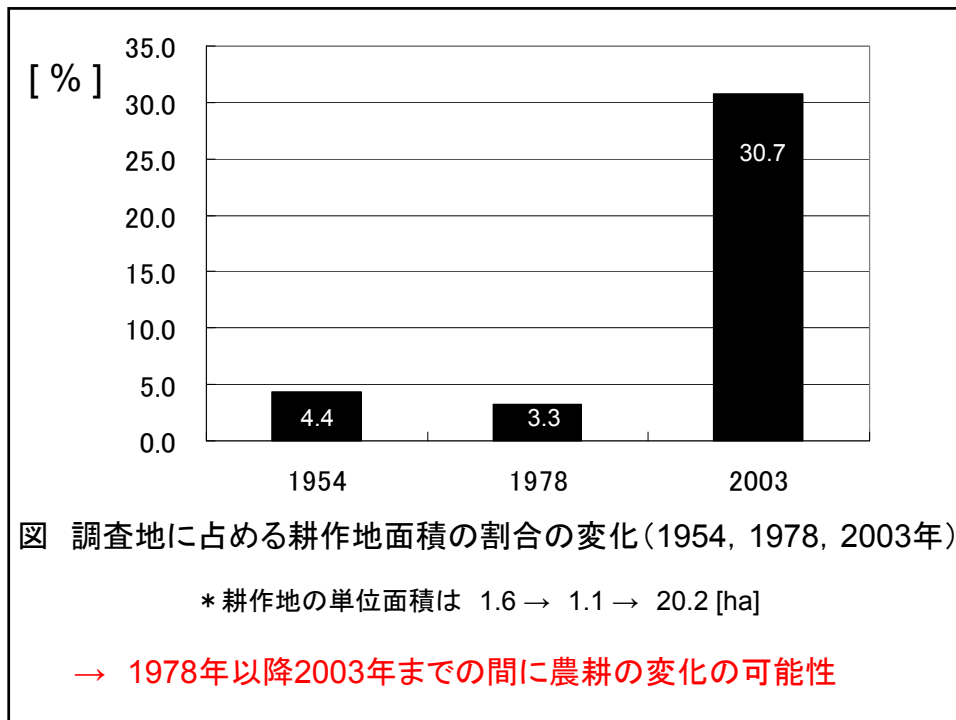
(2)世帯レベルの土地利用

・焼畑から常畑へ

(3)常畑時代の農業







世帯レベルでの土地利用の変化

ハンディGPSを利用した
簡易測量

以前は三脚を立てて測量.
手軽に利用できるGPS機器
は野外調査の必需品.

GPSMAP62S: 27500円

英語ソフトとしては, ARC
GIS が有名(約6万円~).
「カシミール3D」が便利
(無料, フリーソフト).



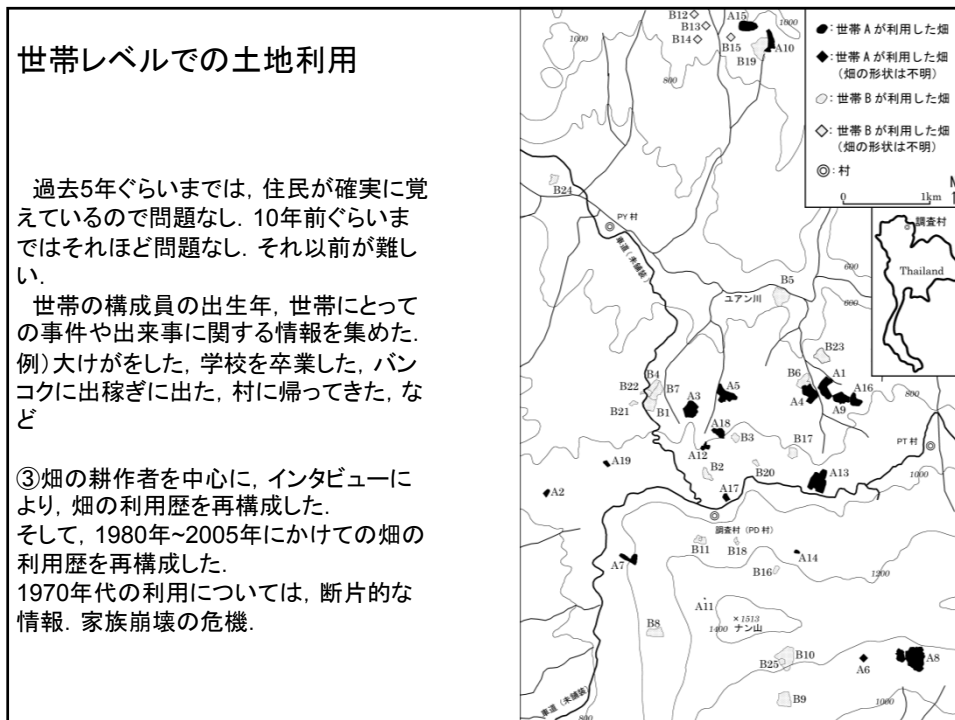
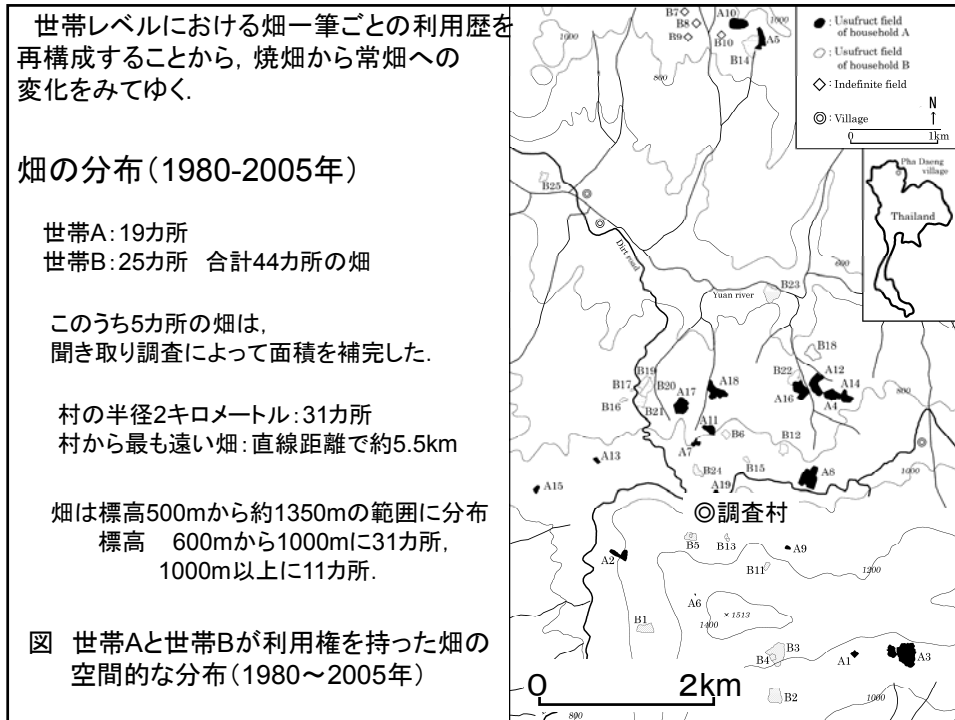


図 世帯Bの農地利用(1980年～2005年)

畑番号	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	休閑年数	休閑の回数		
B1																											1	2		
B2																												1	2+	
B3																												3	2	
B4																												3	2	
B5																												6	2	
B6																												13	2	
B7																													1	
B8																													1	
B9																													1	
B10																													2	
B11																													1	
B12																													1	
B13																													1	
B14																													1	
B15																													1	
B16																													1	
B17																													1	
B18																													1	
B19																													1	
B20																													1	
B21																													1	
B22																													1	
B23																													1	
B24																													0	0
B25																													0	0

■: 利用可能な林地もしくは休閑した畑, ×: 利用禁止, R: 陸稲, O: その他の作物

(3) 常畑時代の農業



- ・ケシに代わる換金作物, 例えばトウモロコシ栽培の定着.
- ・自給用の陸稲の栽培は継続.
- ・化学肥料および除草剤の一般化.
- ・エンジン付きポンプを利用した除草剤の散布, 刈り払い機の利用, 脱穀機の利用.

② タイ北部のミエン族の家畜飼育

表 PD村における家畜別のおもな利用目的

	儀礼	使役	食肉	販売	飼育の有無 (2009年)
ウシ	△	×	△	◎	有
ブタ	◎	×	◎	○	有
ニワトリ	◎	×	◎	△	有
イヌ	×	(△)	△	×	有
ネコ	×	×	×	×	有
アヒル	△	×	△	×	無し
スイギュウ	×	×	△	×	無し
ウマ	×	◎	×	△	無し

凡例 ◎:非常に多い, ○:普通に見られる,
△:ごくまれにみられる, ×:みられない

表 PD村における世帯別の家畜飼育状況(2010年2月)

家畜種	平均 (頭/世帯)	範囲 (頭)	飼育世帯 (%)
ブタ	5.7	0-17	95
ニワトリ(成鳥)	8.2	4-16	100
イヌ	2.0	0-4	95
ウシ	1.4	0-26	10
ネコ	0.3	0-1	29
ヤギ	0.0	0	0
アヒル	0.0	0	0
ウサギ	0.0	0	0

* 正月直後のため, ブタとニワトリの数は少なめである

PD村におけるウシの林間放牧の試み



森林保護区に設定された区域での経済活動

生まれた子ウシを販売し利益を得る
村内では利用(消費)しない。

2004年頃には、小さな子牛で、1万円/頭。
親牛は、2万円/頭～5万円/頭。で取り引き。

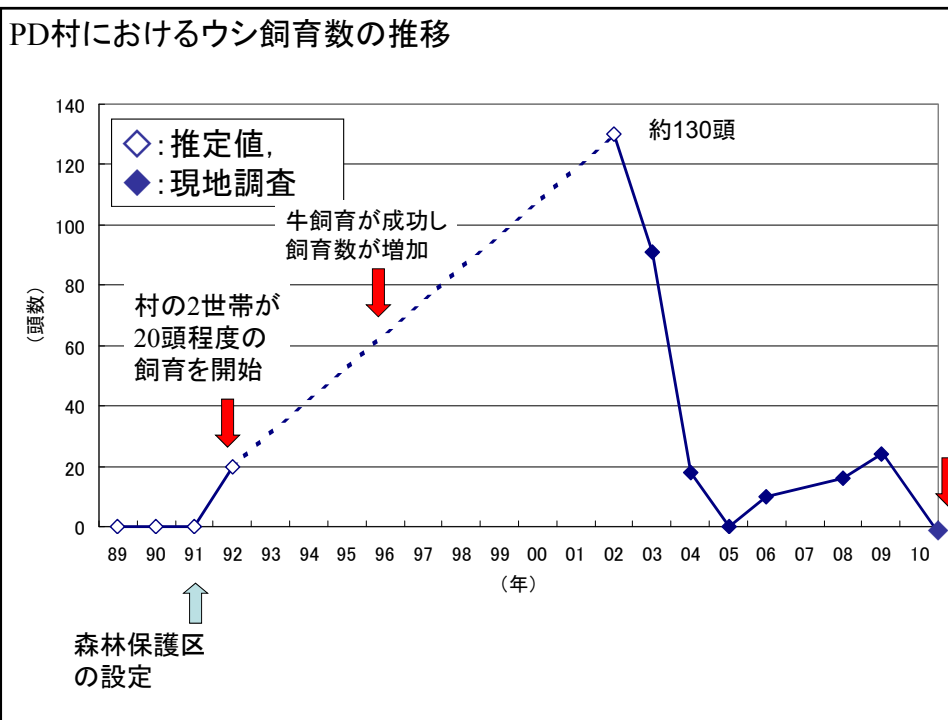
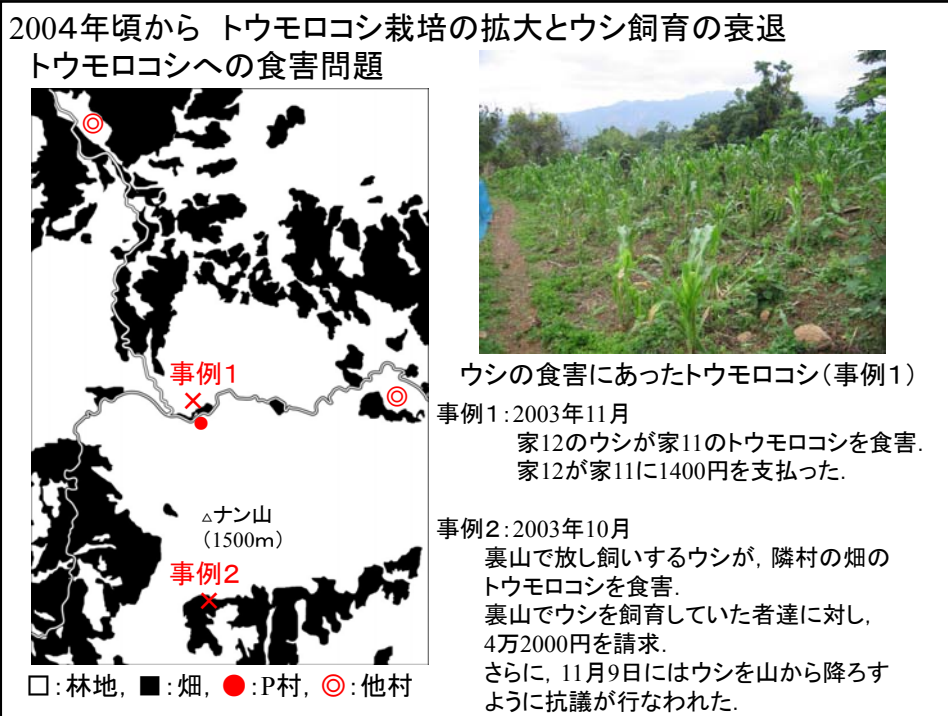
飼育方法：林間放牧，日帰り放牧

請負飼育も盛んだった(子牛が2頭生まれたら折半)

参考

- ・大卒の初任給： 24000円～36000円/月
- ・高卒バンコクで住み込み工場労働： 21000円/月
- ・田舎で1日の農作業： 450円/日 (×25日=11250円/月)

1バーツ=3円で換算



現在の森林保護区 → コーヒー植樹の試み



本事例のウシの林間放牧はお金目的(投機的).
森林保護区の経済的利用を目指した取り組みが続く.

高齢化社会と生業
庭先で高齢者が続ける家畜飼育(ニワトリ・ブタ)



高齢のため農業はやめても家畜飼育は継続 日常的な儀礼の用途
新年に帰村する息子や孫との儀礼・共食

③出稼:都市部に暮らす山地民

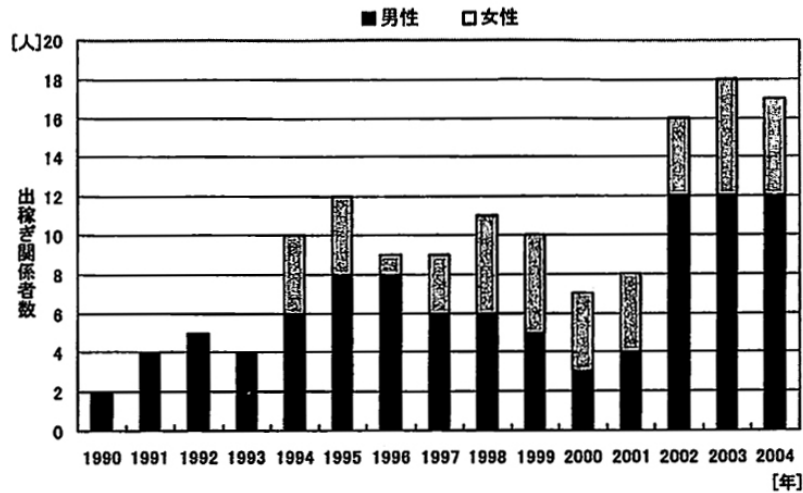
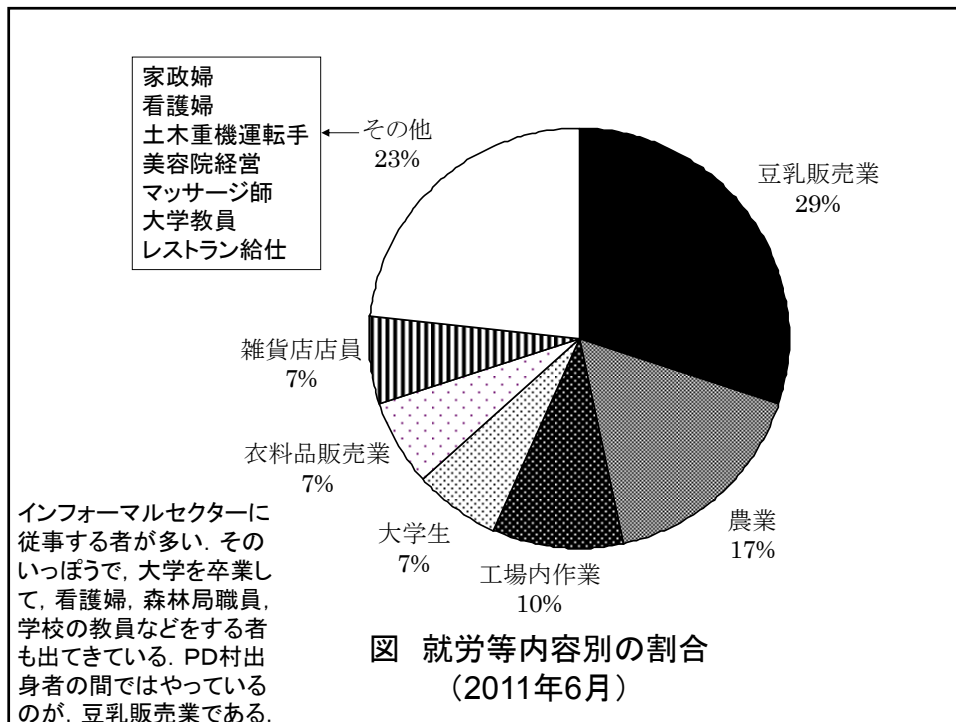
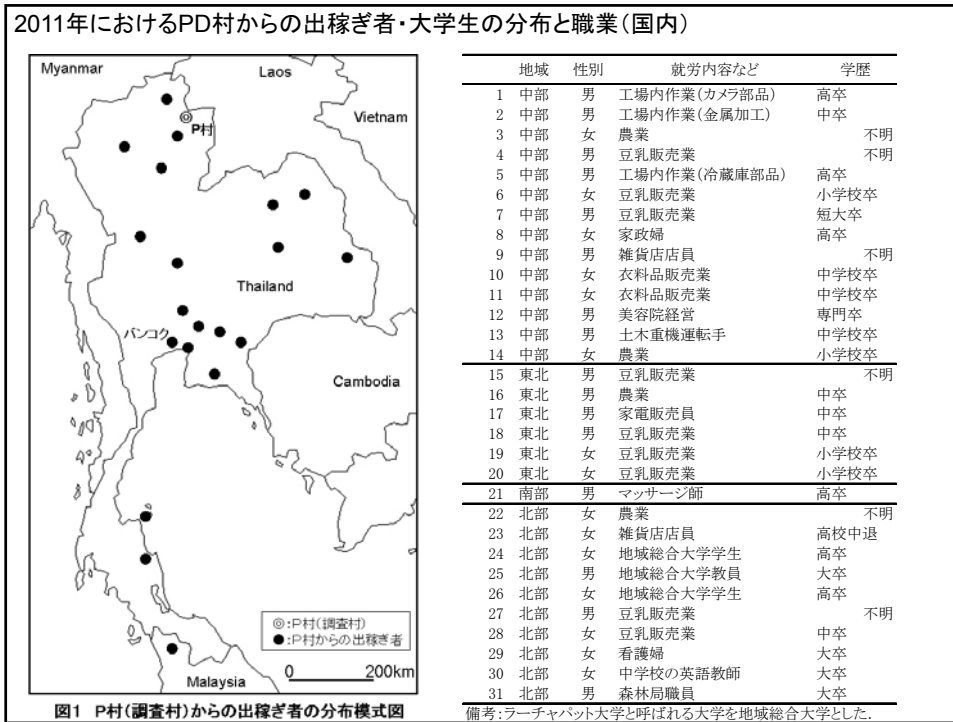


図3 パーデン村における出稼ぎ関係者の人数の年度別推移

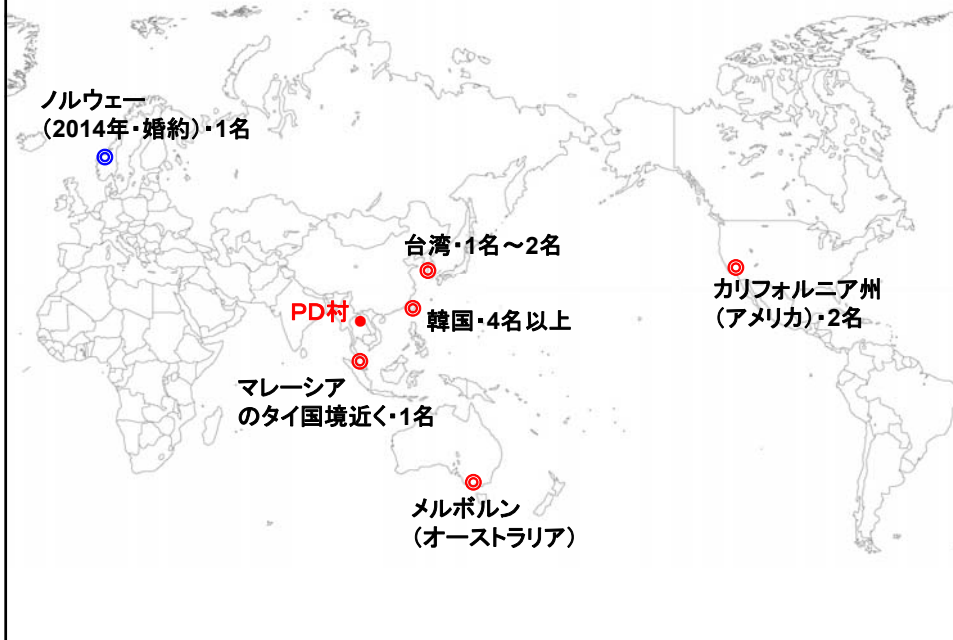
注：調査対象は2004年時点の村民であり、それ以前に村から転出した者は含まれない
出所：筆者が2004年2月から3月にかけて全世帯を対象に行った聞きとり調査

PD村における出稼ぎ先と出稼ぎ者数の変化

出稼ぎ先	2004年 (人)	2011年 (人)
タイ国内		
北部	2	5
東北部	0	6
バンコクなど中部	12	15
南部	0	1
外国		
韓国	1	4
台湾	1	0
アメリカ	0	1
マレーシア	0	1
合計(人)	16	33



PD村村民の出稼ぎ先(国外:2013年前後)



2012年～2014年に海外に出稼ぎに出た7名の事例



カリフォルニア州でイチゴを収穫するPD村からの出稼ぎ者

PD村村民の出稼ぎ経験まとめ(2012年～2014年に帰郷に出た者を対象)							
人物 (M:男, F:女)	M1	F1	F2	F3	F4	F5	F6
おおよその年齢	40代	30代	30代	50代	20代	50代	20代
出稼ぎ先の国	台湾	韓国	韓国	韓国	マレーシア	アメリカ	オーストラリア
働いた月数(ヶ月)	18	6	6	7	就労中	4	就労中 (2-3年予定)
仕事の種類	工場	工場	工場	農業	小売店店員	農業	工場
仕事場で必要な言語	タイ語	タイ語	タイ語	タイ語	中国語	ミエン語	英語
月給(円)	9万円	9万円	9万円	9万円	情報無し	15万円+	15万円+
現地での問題		就労ビザなし	就労ビザなし	就労ビザなし	特になし	特になし	特になし
帰国後の仕事	農業	農業	豆乳販売	農業	-	引退	-
もう一度行きたいか?	行きたくない	行きたい	行きたい	情報無し	行きたい	行きたい	(行きたい)
成功・失敗に関する私の印象	失敗	良くない	良くない	良くない	成功	成功	(成功)
備考	初めに韓国で入国が不許可		韓国で働いていた夫と離婚, 帰国後再婚し東北タイへ		台湾での出稼ぎ経験有り, 中華系マレーシア人と結婚	アメリカに親族有り, 帰国後町に家を購入	タイの大学で英語を学び, 渡豪入

タイ北部のヤオ族が暮らす山村(PD村)における生業の変遷まとめ														
年代	出来事	農法		除草剤・化学肥料の利用	農業:主な栽培作物					家畜飼育			出稼ぎ	
		焼畑	常畑		自給用作物		換金用作物			ウマ(使役)	ウシ(換金)	ニフトリ・フタ(自給・一部換金)		
					陸稲	ケン	綿花	トウモロコシ	ゴム					
1970年代	1950年代から山地民政策が継続, ケン栽培禁止	+++	++		+++	+++					++	+	+++	
1980年		+++	+		+++	+					++	+	+++	
1987年	町から村まで車道開通	+++			+++	+	+				++	+	+++	
1990年頃	1989年商業的森林伐採禁止, この頃, 村に電気開通	+++			+++		+				+	+	+++	+
1991年	村周辺が森林保護区に設定される	+++			+++		+				++		+++	+
1990年代中頃		++		+	+++			+		車・バイク	++		+++	+
1990年代末	タイ経済好調	+	++	++	+++			+++			++		+++	++
2000年	山地民カテゴリー消滅		+++	+++	+++			+++			++		+++	++
2003年			+++	+++	+++			+++	+	(植樹)	+++		+++	++
2012年			+++	+++	+++			+++	++				+++	+++

+++ : 多い, ++ : 一般に見られる, + : 少ない, 空欄 : なし(ほとんどなし)
 ケン栽培では, 畑の全面を耕し, 毎年繰り返し利用したため, これを常畑的な農法としている.
 出所: 増野(2013:135)を改変

今回の講義では、タイ北部に暮らすヤオ族の生業の多様性とその変化について概観した。

19世紀末頃以降に、タイ北部に移住してきたヤオの人びとは「伝統的」に焼畑を営んできたとされる。タイ北部でも、20世紀末頃までは焼畑を営んでいたが、山地民政策や森林保護政策などの影響、そして農業技術の変化などの影響により、1990年代以降には、焼畑を営む者はほとんど見られなくなっている。

山村では現在も常畑での陸稻栽培や庭先でのニワトリやブタなどの家畜飼育が継続されるいっぽう、バンコクなど国内の都市部だけでなく、海外に働きに出る者も一般化している。かつて山地民と呼ばれていたヤオ族の人びとであるが、彼らの活躍の場は、タイ社会を超えて、まさに世界へと広がりつつある。